

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400063		
法人名	(株)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい佐野		
所在地	裾野市佐野49-4		
自己評価作成日	令和5年 1 月 24 日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・委員会活動を設置し職員の得意分野を活かし、一人ひとりが役割を持って楽しく働けるような環境をつくっている。
 ・現場のスタッフの得意分野を活かしたレクリエーション(フラワーアレンジメント教室、書道教室、buffet形式のランチ、カステラ作り、季節にちなんだおやつ作り、小物作り)を提供しています。現場のスタッフも自身の得意分野を活かすことでモチベーションに繋がっております。
 ・海外留学生の特定技能実習を受け入れることでご利用者様、職員含めてコミュニケーションやレクリエーションを通じて異文化交流が出来ております。
 ・ご家族様より「ふれあい佐野の職員さんはみんな優しいです」というお言葉を日々頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街にあり、1階は小規模多機能の事業所が隣接されている。ホーム入居者には小規模多機能を利用していたので顔見知りの方もおり、運動会等の行事やドライブなど一緒に参加し、交流を継続している。敷地内には畑があり四季折々の野菜を作り、一緒に調理をして楽しんでいる。研修については、防災担当や感染症対策委員等、職員の得意とする分野に担当となってもらい、勉強会を開催している。また、レクリエーションにおいてもお菓子づくりやフラワーアレンジメント等、得意な職員がついて、楽しみながら花を生けたり、お菓子を作ったりして、入所者に楽しんでもらうと共に、職員の働き甲斐のある環境づくりにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、事業所理念を大きな声で唱和し勤務についている。職員の中にはこの理念が好きです、といった声も出てきている。	事務所内に掲示していつでも見られるようにしている。全体会議の時に理念について話している。また、毎日朝礼の時に唱和をしてケアの時意識するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為交流が難しいが、レクリエーション時地産地消メニューをテイクアウトし利用している。	コロナ禍で地域との交流は少なくなっているが、駐車場に自動販売機を設置して近所の人買いに来た時に挨拶をしている。行事の時は近隣のお弁当を注文したり、障がい者施設で作ったパンを購入するなど関係を絶やさないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会議に出席し、認知症について説明したり、地域の方々の疑問等に答える機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催ができておらず、書面でのやりとりとなっている為、そこでの意見は聞けていない。個別での連絡時、ご意見、ご要望をいただきサービスに反映させている。	コロナ禍で会議の開催が難しいため、行政や家族には書面を送り確認頂いている。電話や訪問された時に意見を聞いて、事業所内の会議で話し合いサービスに時反映させている。	家族や行政への報告の他に、近隣の住人や自治会、民生委員などの意見も聞いてより一層のサービス向上に活かしていただくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的介護保険課へ運営状況の報告を行っている。コロナ発生の際も裾野市介護保険課や静岡県介護保険課に逐次報告している。	運営推進会議録を届けながら事業所内の様子を報告をしている。家族との付き合い方など相談し、意見を聞くなどいつでも相談しやすい関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に事業所内研修を行っている。また会議内で意見交換を行っている。	3か月に1回事業所内で研修を行っている。研修委員やリーダーが主体となり特にスピーチロックや拘束にあたるようなことに重点を置き、カンファレンスで接し方について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	アンケート調査を行い、虐待防止についても事業所内研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様にて成年後見制度を利用している利用者様の事例を共有し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明をし、利用者様、家族様へご理解や納得を得られるよう十分に説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からのご要望を書面にて開示し事業所内で共有している。面会時には家族様から意見やご要望をお伺いしている。	コロナ禍で面会ができない時、家族から希望があったので、写真と一緒に生活の様子を書いて送付したり、ショートメールを送ったりしていた。状況を確認して、短時間であれば玄関先で面会をすることで意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議にて意見交換をしている。また毎日朝礼や夕礼を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	フロア会議や全体会議で職員から意見を聞くように努めている。職員が長く働けるように時間調整などを行っており、会議以外でも話しやすいように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度に基づき、職員の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修への参加を促している。リモート研修が増え、参加がしやすくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では別事業所とリモート研修等で関わりを持っているが外部の方との交流は殆ど行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別での関りの時間を増やし、ご要望や不安なことをお伺いし職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安やご要望についてお話をお伺いしている。入居後のご様子についてこまめにお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活リズムが崩れることなく継続できるよう事前にアセスメントを行いご支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができることはやっただき職員からもお手伝いをお願いすることで生きがいを見出していきよう調理や洗濯など職員と一緒に行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真付きのお便りで担当職員からご様子をお伝えしている。面会時にもご様子についてお話をさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたりお手紙のやりとりのお手伝いをさせていただいている。昔から使っている物の修理依頼などもそのお店でお願いしている。	入居前から付き合いのある補聴器やメガネ屋に修理を頼んだり、通っていた美容院に来てもらっている。また、親戚の人との面会や職員が手伝って手紙を書くなど、関わりが絶えないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の片付けや洗濯など一緒に行っていたご利用者様同士が関われる環境を多く見つけ共同生活が送れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の施設や医療機関へ面会や連絡をしたり、利用終了した方の家族様とその後も連絡を取ってやりとりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話からも思いを汲み取り記録に残したり情報共有を行い職員全員が周知できるようにしている。	お茶の時や日頃の会話の他に、夜間一対一で関わることが多いので話をしたり、聞いたりしている。言葉が出ない人には二者選択を提示し目を追った時や表情から読み取るように努め、普段と違う表情の時は記録に残し職員に伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様から情報を聞き、生活環境や生活歴を把握しサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの細かな情報を職員間で共有し小さな変化にも気づけるよう努めている。またフロア会議にてカンファレンスを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にてモニタリングを行い、ご家族様にはお便りや面会時に日々の状態をお伝えし、ご家族様の意向やご要望を取り入れケアプランを作成している。	朝と夕礼の時に職員から利用者の様子を聞いたり、フロア会議で支援について話し合い介護計画書に反映させている。家族には面会に来た時に担当者会議を行ったり、来れない時は電話で説明をして要望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにて個別に記録を残している。出勤時記録を確認し情報把握を行っている。申し送り時や会議の場で意見交換も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの想いに寄り添ってご支援している。難しい対応であっても実現できるように職員同士考えケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロン等、利用者様のニーズに合わせて地元で活動する方に訪問を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は月2回の訪問診療があるが、ご本人様の状態や希望により外部の病院への受診も行っている。	入居前に訪問診療の説明をして、希望を聞いている。以前からかかっている病院に受診する時は家族対応をお願いをし、付き添いができない時は職員が対応し、病院と連携を取るように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	巡回の看護師や医療連携先の看護師へ連絡を取りご利用者様の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時と面会が難しい為、医療ソーシャルワーカーと連絡を取り情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や定期的に生前の意向を確認しているが終末期に近づいた場合には再度ご家族様へ確認し意向を伺っている。医療連携先へ情報提供し、医師より説明を行っている。	入居時に説明をして本人、家族に意向を確認しており、身体状況が変わった時、話をし意向を確認している。終末期には医師から説明をして頂き再度意向を確認し、ケアについて医師の意見を聞き話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり研修や勉強会を行っている。ご利用者様への疾患や状態変化への対応の仕方は会議で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、風水害訓練を年1回行っている。会社組織でのBCP訓練も行っている。防災担当が勉強会をし防災への理解を深めている。	防災訓練を年2回と風水害訓練を年1回行い、昼間だけではなく夜間想定も取り入れたり、グループの三事業所合同で訓練を行っている。また、BCPマニュアルを基に継続訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様が不快に思わない言葉かけや対応を行っている。フロア会議にて職員同士言葉の言い換えについて考えている。	言葉の言い換えや声の大きさに留意をするなど会議で話し合っている。日頃においても居室のドアの開け閉めは回数を少なくし、着替えは部屋で行い、不適切なケアと思われる時は、その場で注意して職員が常に意識するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクリエーションなどご本人様の意思を確認しご支援させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間やその日の過ごし方は個々のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着用する洋服はご本人様に好みものを選んでいただいている。必要に応じて一緒に選ぶよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを一緒に行ったり、食後の片付けはご利用様が自らしていただける為職員は言葉かけや見守りをしている。お誕生日には利用者様のお好きなものをお伺い希望の食事をご用意している。	利用者ができることはやってもらうように、一緒に盛り付けたり片づけをしている。盛り付けの時は色合いを考え、見た目でも楽しめるように工夫しており、季節感のある物を作ったり、誕生日にケーキを一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録に残している。食事量の低下がみられた時には食事形態の見直しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方は言葉かけにて行っていたが、出来ずらい部分を補助介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でのご案内の他に、個々の排泄パターンに合わせてのご案内もしている。使用量の頻度によってはご案内する時間の見直しを行っている。	自分から訴えのない利用者には、排泄パターンを記録に取り時間での声掛けと椅子から立ち上がったりの動作から、トイレに案内をしている。立位が取れる利用者には、なるべくトイレに座ってもらうケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション時の体操だけでなく、個々に運動する時間をつくっている。水分を多く摂取してもらえるよう、好きな飲み物をご用意したり言葉かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人が望まない時は曜日を変更している。入浴が苦手なご利用者様に対して、お誘いの仕方を考えたり入浴剤など用意している。	一対一で話をしながら、ゆっくり入浴してもらっている。入浴を望まない時は日を変えたり、入浴剤を選んでもらい入浴を楽しんでもらうよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の状態をみながら休息する時間をつくっている。就寝はご本人様のペースで居室に戻り休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を確認し、様子観察を行い変化がみられた時には、往診時医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や家事などを職員が把握し、職員と一緒にすることで今までの生活が継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が難しいため、テラスや駐車場内での外気浴や散歩の時間を増やしている。気分転換の為個別対応でドライブにお連れしている。	コロナ禍で外出が難しいときは、二階のテラスでお茶をしたり、シャボン玉などのレクリエーションを行い、時には一緒にゴミ捨てや駐車場の自動販売機に行き、ジュースを買ったりして気分を変えている。最近は車でドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時にお伝えし現金、貴重品類の持ち込みはご遠慮いただいている為、ご利用者様は原則現金を持ち合わせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれてご家族様やご友人と電話されている方もおり、手紙のやり取りも協力し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示物を見えるところに飾っている。定期的に換気や消毒を行い、フロア内の室温に注意をはらい過ごしやすい環境づくりに配慮している。	一緒に季節の飾り物を作ったり、写真を貼ったりして季節を感じてもらっている。居間にはソファを置き、座りたいところに自由に座って音楽を聞いたりユーチューブを観たりして、居心地よく過ごしてもらうように常に工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は固定しているが食事以外では席を固定せず好きな場所に座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビなど、ご自宅から使い慣れたものや好みの物を持参していただきご自宅に近い居室づくりに努めている。	入居前から使用していた物を持ってきたり、写真を飾る他、職員誰もが利用者の体調がわかるよう、折り紙で色別に部屋の入り口に貼ったり、夜間は明かりの調整などして、快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の状態に合わせ車椅子や歩行器を使用、安全に配慮しながら支援を行っている。		